



## 魚はどうして卵をたくさん産むの

### 親が子育てする動物は、卵や子どもが少ない

生き物は、ふつう、卵や子どもが、ぶじにおとなになれる割合が小さいものほど、たくさんの卵や子どもを産みます。そうしないと、子孫がいなくなってしまうからです。

ゾウや人間などのほ乳動物や、鳥の仲間は、ほかの種類動物に比べて、生む子どもや卵の数が少ないといえます。ほ乳動物も鳥も、子どもが大きくなるまで、親が世話をして育てるため、ぶじに育つ割合が高いのです。

### 卵を産みっぱなしの魚は、たくさん産む

魚の卵は、卵のつぶがばらばらに水面にうくもの、海そうなどにくつつくもの、ばらばらに水の底にしずむもの、などがあります。どのタイプでも、魚の親は、卵を産みっぱなしというのが多いものです。そのため、卵や、卵からかえった子魚が、ほかの魚のえさになって食われてしまうことが多く、たくさん卵を産まないで、子孫が残らないのです。

### マンボウの卵の数は、およそ3億個

海面にただよう卵を産む中では、マンボウが最高で、およそ3億個、マダイ、シラ、メバチマグロなども、600～700万個産むといわれています。水草などにくつつく卵で多いのは、コイが70万個、フナが15万個、川底に穴をほって卵をうめるマスやサケになると、2600～3800個ほどになります。

オスが卵をおなかのふくろで守るタツノオトシゴの仲間は1000個、親が子魚を口の中に入れて守るティラピアは500個、親が巣を作って卵を守るミナミトミヨは100個と、親が守ったり、世話したりする種類は、卵の数が少なくなります。

(監修・安部 義孝)

